
コラム 20

カッサラへの旅

ハルツームからカッサラまでは約 700 キロ、飛行機が週 1 便しかないと、陸路での移動になるが、道が比較的良いので、約 8 時間程度のドライブだ。夜は交通事故が多く、移動を避けているので、ちょっとした会議でも 3 日仕事となり、ジュバに行くより日程を食う。

ハルツームから南下してワドメダニまでは青ナイル川沿いの灌漑農地の間を行く。ワドメダニを過ぎて青ナイル川を渡って、さらにラハド灌漑スキームの橋を渡り、東に進むと部族が変わるので、アラブの四角い泥作りの家から、マッシュルーム型の家に替わる。このあたりから、景色が変わり低い岩山が見える。ここでは午前中だとサルを見かける。スーダンにはヒヒのような大型のサルもいるが、ここのサルはニホンザルにそっくりだ。

道の両側にアカシアの植林地が出てくると、ゲダレフ州の州都ゲダレフまでは 100 キロを切ったところだ。ハルツームを朝出ると、大体ここで昼食をとる。ここまで 420 キロ、5 時間の旅だ。

ゲダレフ州は灌漑がほとんどないため、天水農業か家畜（ラクダ、ウシ、ヒツジ）に依存している。ラクダが増えてくるのもこのあたりだ。

ゲダレフを出て、ちょうど 1 時間ぐらいのところに、日本の NGO 「ロシナンテス」が支援している、シェリフ・ハサバラ村への分岐がある（村はこの先 5 キロぐらい）。小一時間でカッサラ州に入り、アトバラ川を渡る。アトバラの上流にはカシバギルバという大きなダムがあり、発電とニューハルファ灌漑スキームに水を送っている。現在その上流には、ティートダムという巨大なダムがクウェート資本で建設中である。



カッサラの市街とシンボル、タカ山

しばらく進むと、尖った岩山が見えるが、これがカッサラ市内にあるタカ山だ。この山のふもとには泉（トルティーヤ）がわいており、観光地になっていて、新婚旅行のメッカだ。この道はバラエティに富んでいて、何度も走っても飽きない。

以上